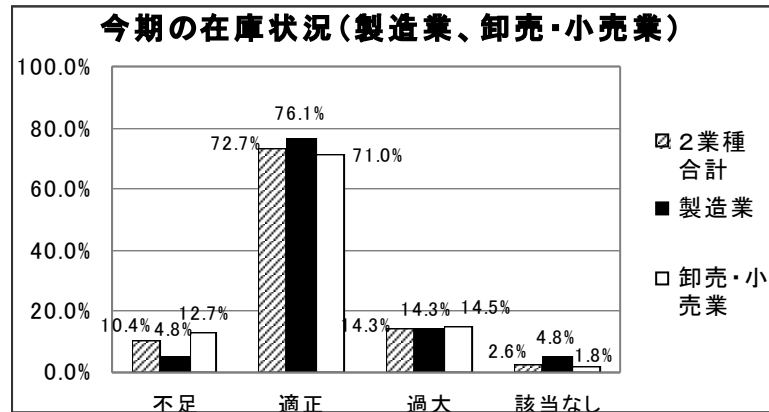
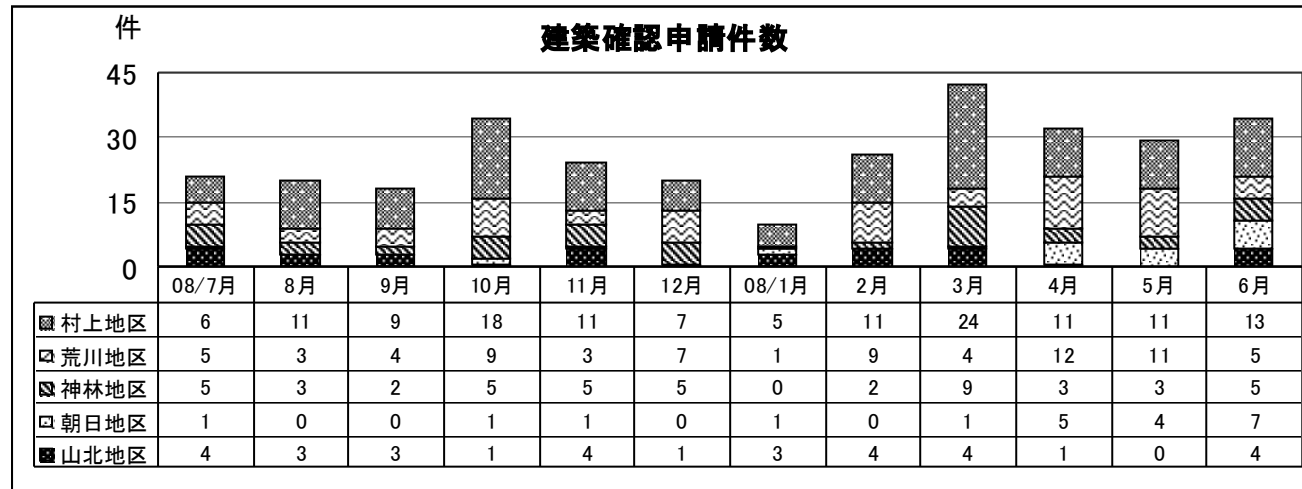


# 村上市景況調査報告

平成20年4～6月期の実績と7～9月期の見通し



製造業、卸売・小売業において、在庫を「適正」とする企業は72.7%、「過大」とする企業は14.3%、「不足」とする企業は10.4%で、業種別にみても、同じ傾向が見られる。



※旧村上市においては、これまで100社を対象に景況調査を四半期毎に実施してきましたが、4月1日の5市町村合併により新村上市が誕生しましたので、今回から調査対象を200社に拡大し、全地区を対象に実施いたしました。取りまとめた調査結果の概要は以下のとおりです。

調査時期：2008年6月中旬～下旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 180社 (回収率90%)

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社  
〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

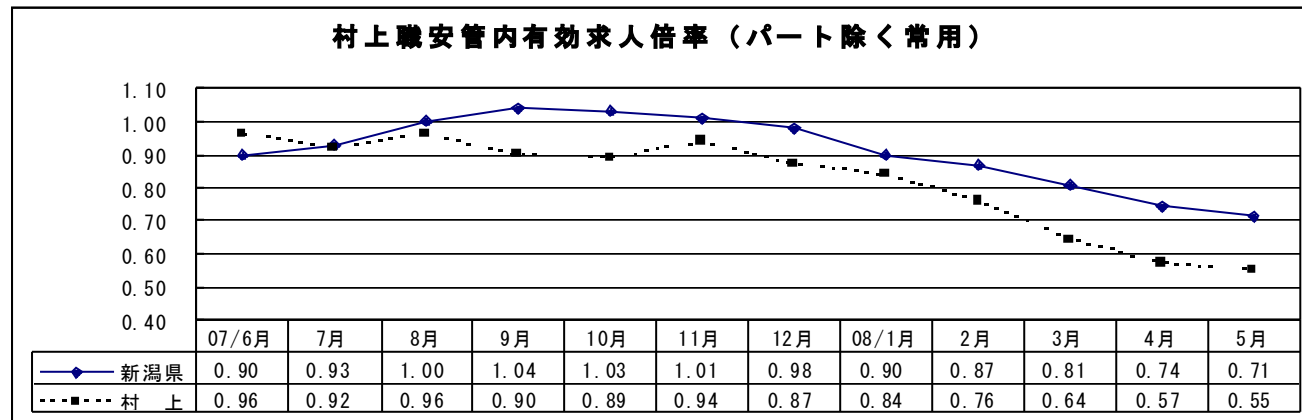
実施機関：村上市産業観光部商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

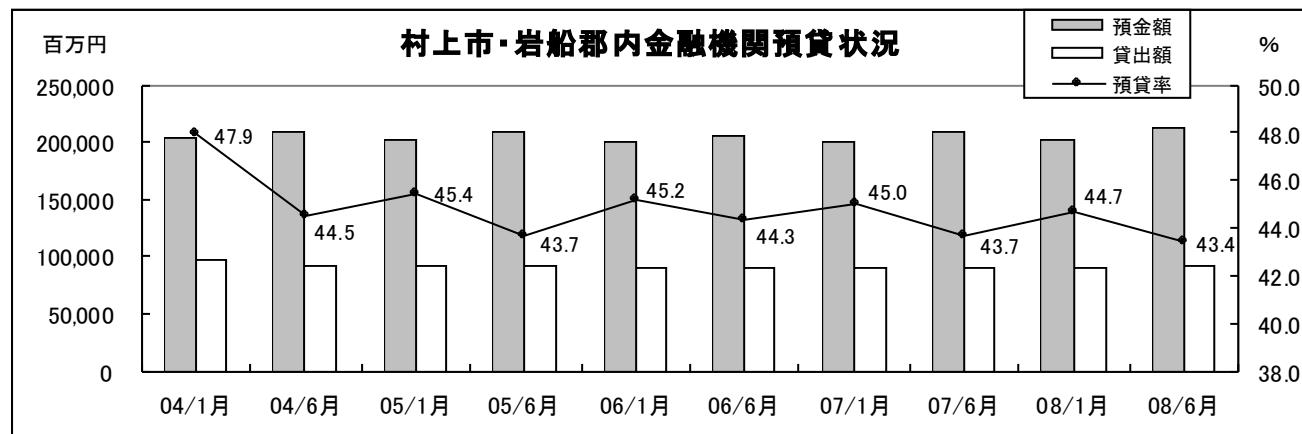
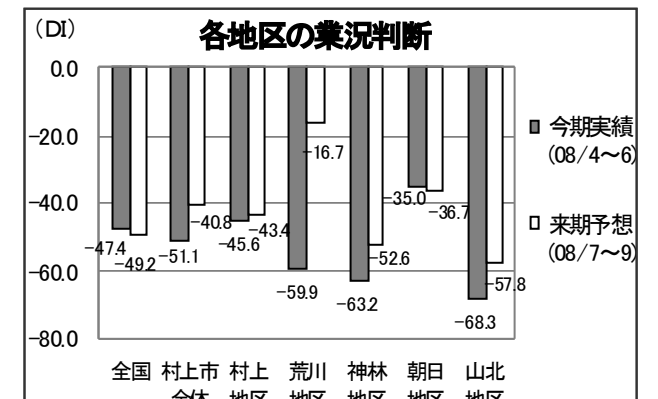
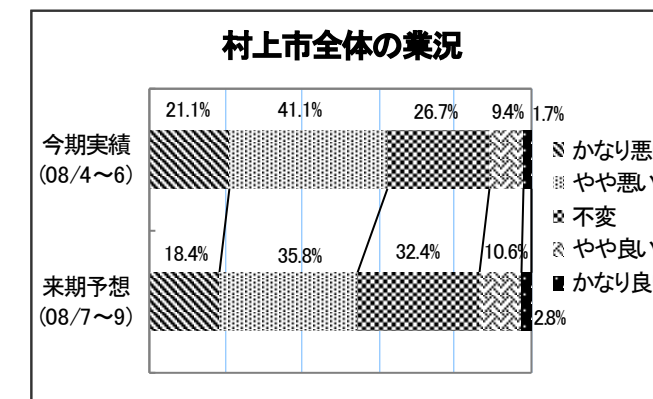
全国状況：国民生活金融公庫調査 全国小企業動向調査結果 (2008.4～6実績、7～9見通し)

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合 (売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを目指す。)

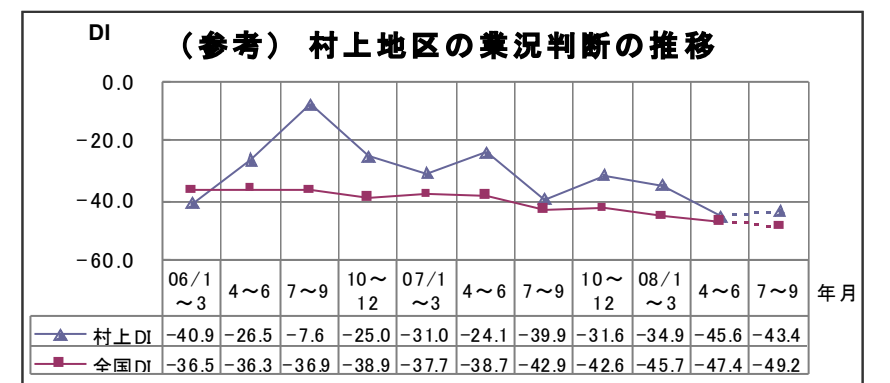


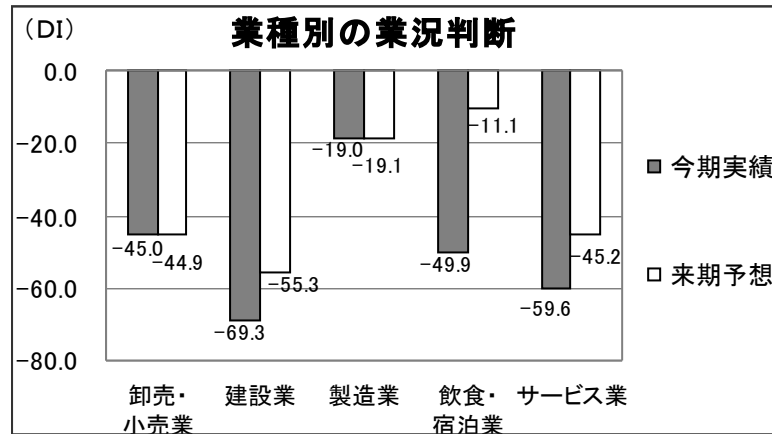
## 『今期は低水準、来期は季節要因等で期待高まる』

### ■村上市の業況



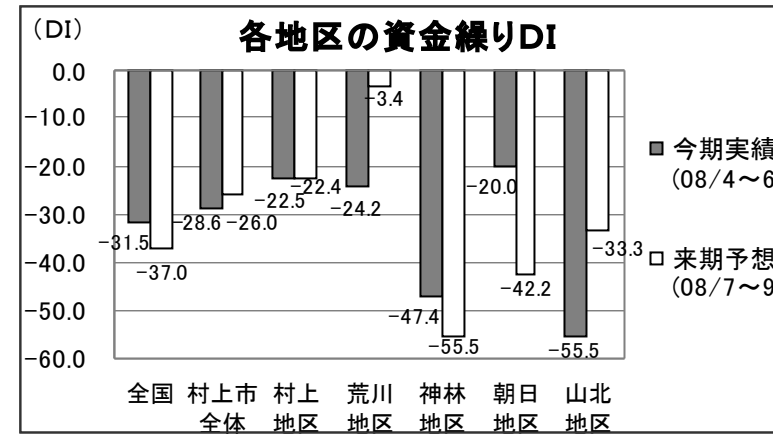
今期(4～6月期)の業況判断DIは▲51.1で、全国のDIに比べ3.7ポイント下回った。来期(7～9月期)については、全国のDIが1.8ポイント低下する見通しの中、村上市においては、夏物商品の期待感や海水浴シーズンで賑わいが予想されることなどから、DIが大きく10.3ポイント上昇する見込みで、全国の水準を上回る可能性が出てきた。





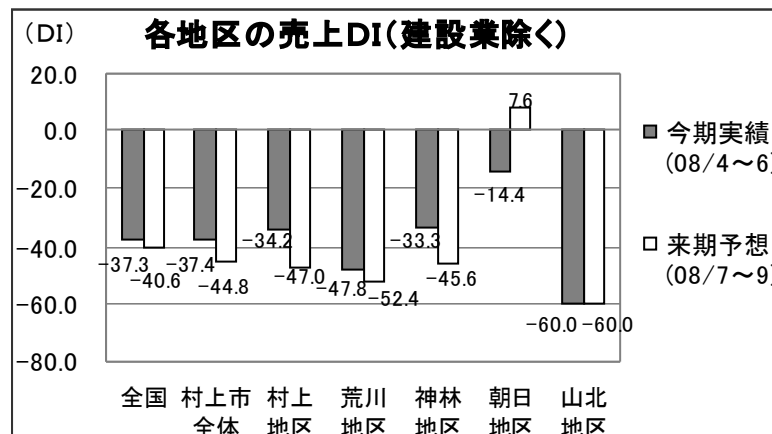
今期の業種別業況判断DIは、製造業が▲19.0と最も高く、次いで卸売・小売業、飲食・宿泊業、サービス業、建設業の順となっている。

来期については、製造業と卸売・小売業が今期とほぼ同水準の見込みで、飲食・宿泊業で38.8ポイント上昇、サービス業で14.4ポイント上昇、建設業で14.0ポイント上昇の見通しとなっている。



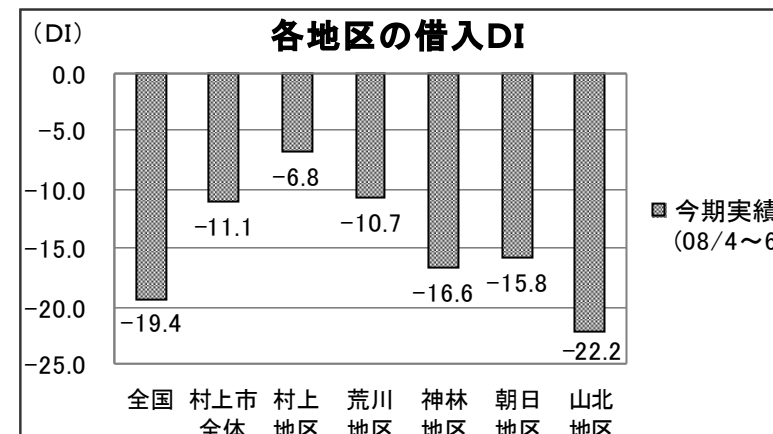
今期の資金繰りDIは▲28.6で、全国のDIより2.9ポイント上回った。来期については、全国が5.5ポイント低下する見込みに対して、村上市は2.6ポイント上昇の見込みである。

来期について地区別に見てみると、朝日地区で22.2ポイント低下、神林地区で8.1ポイント低下、村上地区はほぼ今期と同水準、山北地区で22.2ポイント上昇、荒川地区で20.8ポイント上昇の見込みとなっている。



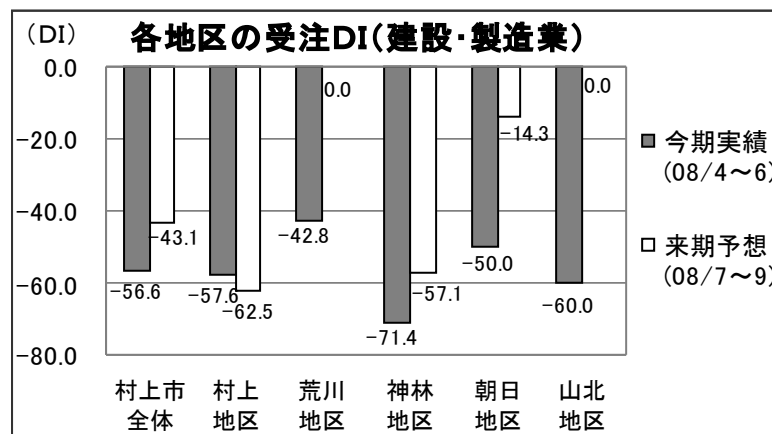
今期の売上DIは、▲37.4で全国のDIとほぼ同水準となった。来期の見通しについては、7.4ポイント低下する見込みで、全国の低下幅(3.3ポイント)よりも大きくなっている。

来期について地区別に見てみると、村上地区、荒川地区、神林地区で売上DIが低下し、山北地区は今期と同水準、朝日地区のみが上昇しマイナスからプラスに転じる見込みである。



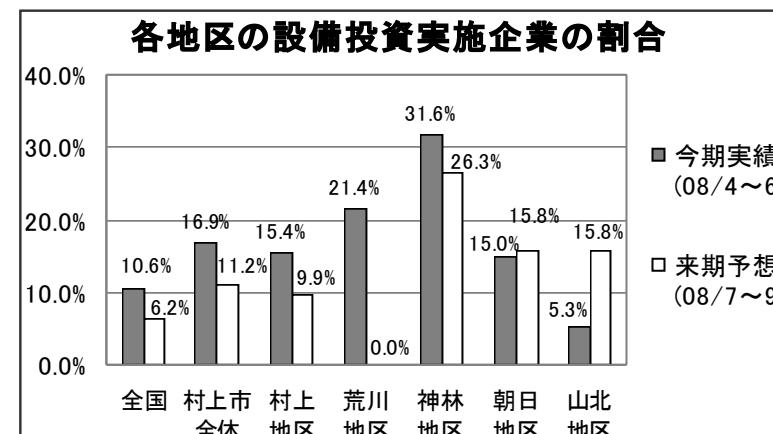
今期の借入状況は、「容易になった」が2.9%、「難しくなった」が14.0%で、DIは▲11.1となったが、全国のDIより、8.3ポイント上回った。

地区別では、高い順に村上地区、荒川地区、朝日地区、神林地区、山北地区となっている。



今期の受注DIは▲56.6で、来期は13.5ポイント上昇する見込みである。

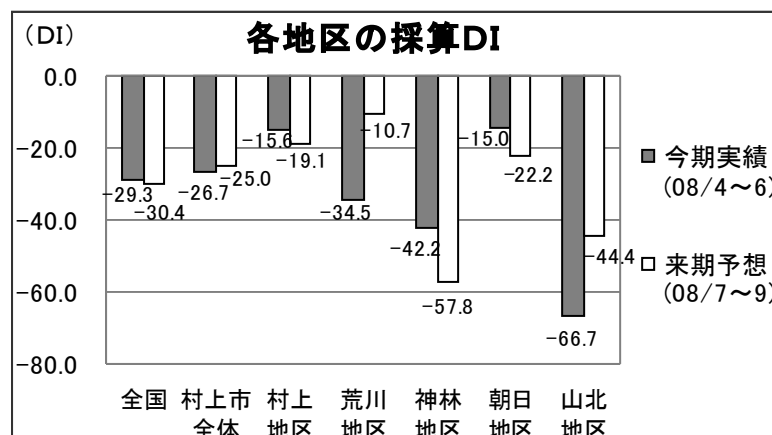
来期について地区別に見てみると、村上地区が4.9ポイント低下する見込みであるが、その他の4地区では上昇する見込みである。ただ、荒川地区は来期「変わらない」とした者が100%だったためDIは±0となり、山北地区も「変わらない」が60%、「増加」20%、「低下」20%となったためDIが±0となっている。



今期、設備投資した企業の割合は、16.9%で、全国よりも6.3ポイント上回った。

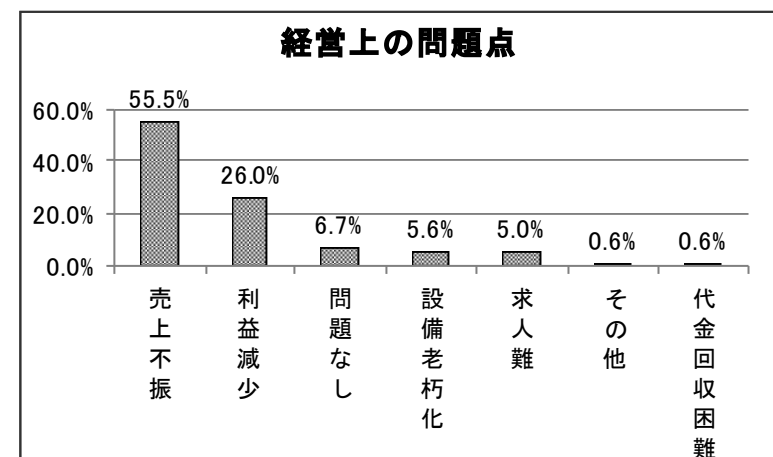
来期に設備投資を予定している企業の割合は11.2%で、全国同様、今期を下回る見通しとなっている。

来期について地区別に見てみると、山北地区で10.5ポイント上昇する見込みで、朝日地区は今期とほぼ同水準、その他3地区は減少する見通しである。



今期の採算DIは▲26.7で、全国のDIより2.6ポイントを上回った。なお、来期については、全国も村上市も今期とほぼ同水準の見込みである。

来期について地区別に見てみると、神林地区で15.6ポイント低下、朝日地区で7.2ポイント低下、村上地区で3.5ポイント低下する見込みで、荒川地区で23.8ポイント上昇、山北地区で22.3ポイント上昇の見通しとなっている。



経営上の問題点をみると、第1位が売上不振(55.5%)、第2位が利益減少(26.0%)、第3位が問題なし(6.7%)となっている。

全国では、第1位が売上減少(52.2%)、第2位が利益減少(27.2%)、第3位が求人難(4.6%)となっている。